

輸入検疫で発見された主な病害虫

平成5年に輸入された植物から発見された重要病害虫は別表のとおりである。このなかで、*印のついている貨物として輸入されたタイ産オクラからサツマイモの害虫であるアリモドキゾウムシが発見された事例が3回あった。また、ミャンマー

から輸入される豆類からブラジルマメゾウムシの発見が目立っている。空港では、東南アジア地域から携帯品として持込まれる熱帯果実類が多く、これらから発見されるミカンコミバエやウリミバエの発見回数が相変わらず多い。

発見病害虫名	寄主植物発見回数	輸出国別発見回数
<i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミバエ(6件)	リンゴ(1) マロメ(1) チェリモヤ(1) カニステル(1) コーヒノキ(1) アカツツ科(1)	ペルー(3) スペイン(1) ブラジル(1) モロッコ(1)
<i>Dacus dorsalis</i> ミカンコミバエ(221件)	マンゴウ(52) リュウカン(27) レンブ(23) パンレイシ(23) パンジロウ(21) ナツメ(8) サントール(8) レイシ(7) バナナ(7) トウガラシ(6) ランブータン(4) 他20種(35)	台湾(96) タイ(56) フィリピン(38) シンガポール(8) マレーシア(7) インドネシア(3) ベトナム(3) カンボジア(1) ミャンマー(1) 不明(8)
<i>Dacus cucurbitae</i> ウリミバエ(20件)	ニガウリ(8) キュウリ(4) ササゲ(3) インゲン(1) ヘチマ(1) ヘビウリ(1) ヤサイカラスウリ(1) メロン(1) リンゴ(2)	台湾(6) フィリピン(4) バングラディシュ(4) タイ(4) スリランカ(1) インド(1) ペルー(1) アメリカ(1)
<i>Cydia pomonella</i> コドリンガ(2件)	サツマイモ(2) *オクラ(3)	タイ(3) 台湾(1) 中国(1)
<i>Cylas formicarius</i> アリモドキゾウムシ(5件)	トウガラシ(16) ナス種子(1)	タイ(9) マレーシア(3) 他3か国(5)
<i>Colletotrichum capsici</i> (17件)	マンゴウ(3) タマゴノキ(1) ピワ(1) コーヒノキ(1) マメ科生果実(1)	ブラジル(5) ペルー(1) ナイジェリア(1)
<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ(6件)	グレープフルーツ(1) レタス(1)	アメリカ(2)
<i>Ceratitis rosa</i> ナタールミバエ(1件)	カエデ属(1)	オランダ(1)
<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシウリハムシ(2件)	モミ属(1)	アメリカ(1)
<i>Otiorynchus sulcatus</i> キンケクチプトゾウムシ(1件)	フロデア属(4) ツゲ属(3) テンニンソウ属(2) オレンジ(1)	ハワイ(6) オーストラリア(3) 南アフリカ(1)
<i>Otiorynchus ovatus</i> イチゴクチプトゾウムシ(1件)	ライマメ(24) インゲン(5) ヤエナリ(2) タケアズキ(2) ツルアズキ(1) ヒヨコマメ(1) ブラックマツペ(1)	ミャンマー(33) インド(1) ペルー(1) パキスタン(1)
<i>Pantomorus cervinus</i> フラーバラゾウムシ(10件)	テンサイ(1)	オーストラリア(1)
<i>Zabrotes subfasciatus</i> ブラジルマメゾウムシ(36件)	ショウガ(16)	インドネシア(16)
<i>Heterodera schachtii</i> テンサイシストセンチュウ(1件)		
<i>Radopholus similis</i> バナナネモグリセンチュウ(16件)		

海外のニュース

中南米に発生したジャガイモの鱗翅目害虫

ジャガイモの害虫としては、ジャガイモガが世界的に有名であるが、近年、中南米地域において、ジャガイモガと同じキバガ科に属する鱗翅目害虫2種の発生が報告されているので紹介する。

1970年にコスタリカで、ジャガイモの塊茎を食害する害虫が発見され、1973年にキバガ科の新種 *Scrobipalopsis solanivora* Povolny として記載された。現在ではグアテマラからパナマに至る中南米諸国で発生している。本種もジャガイモガと同じようにジャガイモの塊茎を食害するが、土中または貯蔵中の緑化していない塊茎に限られている。

本種の生態と防除方法に関する研究は緒についたばかりで、今後の研究が待たれている。栽植用の種バレイショについては殺虫剤(ボラトン2.5%粉剤)の粉衣が有効である。

一方、1991年にボリビア国内で収穫されたジャガイモから、これまで知られていなかった鱗翅目

幼虫による被害が発生し、調査した結果、キバガ科の *Paraschema detectendum* Povolny であることが判明した。本種による被害は、幼虫が塊茎内部を食害することによって引き起こされる。本種は孔道内に虫糞を蓄積しながら食害し、ジャガイモガのように虫糞を孔道外に排出しないことから、両種の識別は可能である。幼虫の体色はクリーム色で、終齢幼虫になると雄が9mm、雌が16mmになり、ジャガイモガに比べかなり大きい。蛹は暗褐色である。標高2,700~4,000mのジャガイモ栽培地帯で発生している。

FAO Plant Prot. Bull.(1993) Vol.41

植物防疫(1992) Vol.46

発行所 横浜植物防疫所
〒231 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人 大川 義 清
編集責任者 秦 二 郎
印刷所 内村印刷株式会社